

茂木大臣ぶら下がりの概要

日時：8月10日（金）14：16～14：36（現地時間）

場所：アメリカ・ワシントン

（記者）

今日、こういった議論が行われて、大臣はいい成果を出したいとおっしゃってましたけど、いい成果というのは出たのでしょうか。

（茂木大臣）

昨日と今日、ライトハイザー通商代表と生産的な議論、いい議論を行うことができたと思っております。日米両国は、自由で開かれた経済発展を実現するために、双方の利益となるように、日米間の貿易を更に拡大させること、そして国際経済問題での日米協力を一層進めることの重要性を認識して今回の協議を行ったものであります。

2日間の協議を通じてライトハイザー代表とは、これまでの貿易投資についての関心やお互いの意見を率直に交換し、双方の基本的考え方、立場及び共通認識について理解を深めることができたと考えております。

その上で、双方とも、それぞれの立場の相違を埋めて、日米の貿易を促進させるための方策を探求すること及び共通認識に基づき協力分野を拡大していくことで一致をいたしました。

日米は信頼関係に基づき、引き続き協議を継続し、本年9月を目途に開催することになりました次回の会合において、さらに議論を深める、こういったことでも一致しました。基本的にはこういうことです。

（記者）

具体的な方策の部分で、今回2日間ですね、例えば自動車とか農業とか、双方関心事項あったと思いますが、何か結論に近づいたことはあったということですか。

（茂木大臣）

まず、ある意味、協議を継続中ということとして、これから詰めていくということではありますが、昨日は2時間半のうち、2時間以上、ライトハイザー通商代表と2人でじっくり話をさせてもらいました。

昨日、幅広い分野について相当突っ込んだ議論をしましたので2人っきりで、今日、少人数の幹部も入れて、その議論を整理、そして確認して今後の進め方についても合意をしたところであります。今の段階で、どういう分野についてどういう議論をした、相手の立場もありますので申し上げられない部分というのはありますが、昨日からお互いには様々な考え、球を出しておりまして、うまくいけば9月までには同じボールでキャッチボールできるようになるんじゃないかと思っております。

（記者）

基本的な考え方は、アメリカは二国間の交渉を重視していて、日本は多国間を重視している、違うわけですがけれども、相違はある中でも、成果はだせるというお考えなのでしょうか。

(茂木大臣)

これから詰めていくことではありますが、それぞれの立場の相違を埋めてこうと、それによって、日米の貿易を促進させていくための方策を見出していこう、基本的な方向については一致をみたと思っております。

(記者)

国際経済協力問題に向けた一層の協力をというお話でしたが、米政権は特に7月末下旬以降くらいにですね、対中国の志を同じくする友好国との連携ということ、より強く打ち出すようになっていて、その文脈で米側とどういう議論がなされたのか、TPPの議論とも重なるところがあると思うんですけど、そこちょっと詳しく教えてくださいませんか。

(茂木大臣)

さきほど、冒頭申し上げましたように、国際経済問題での日米協力を一層進めることの重要性、これを確認しました。そして、共通認識に基づき、協力分野を拡大させていく、当然その中には自由主義経済圏で世界第1位のアメリカ、第2位の日本が、日米間の問題にかかわらず、国際貿易の全体、不公正な貿易取引であったり、強制的な技術移転の問題、更には知財の問題、国営企業による歪みの問題、そういったものも含めた今後のルール作りや対応、さらにはWTOのあるべき姿、こういったことについても議論をし、また協力していきたいと思っております。

(記者)

今おっしゃった文脈の話というのは、基本的には中国を念頭に置いたという理解でよろしいでしょうか。日米でそういう認識なのでしょうか。

(茂木大臣)

どういう念頭においているかは別にしまして、今申し上げたとおりです。

(記者)

昨日、具体的におっしゃられないということだったのですが、自動車関連でアメリカからはどのような説明があり、特に日本としての立場もあると思うのですが、特に日本製品について回避などが確約された部分があったか教えてください。

(茂木大臣)

これからまさに実際にどうしていくかと協議を継続するというか、深めていくということでありまして、日米の協力を促進していくための方策を探求する、こういった趣旨からも、日米の通商政策への信頼醸成が必要不可欠である、このことは米側に私のほうから明確に伝えたところであります。そしてそのうえで、信頼関係に基づく協議を続けていくということにしたわけでありまして。

(記者)

信頼関係を続けるということは、特にその間、関税を打つことはないということですか。

(茂木大臣)

まさに昨日から議論始まったところでありまして、そして、今の文脈が何を申し上げているかはご想像いただければと思います。

(記者)

農産物についてですけど、FFRまでのライトハイザー代表の発言からみても、日本とかなり立場にも違いがあって、それを埋めるための協議だと思うんですけども、今回、大臣から何をおっしゃって、先方からどういうお話があったのかという部分を具体的に伺いたいのと、スタイルとして今日は1対1の協議ですとか、何対何だったのか、そういった協議の形は今日どうだったのか教えてください。

(茂木大臣)

協議の形は、昨日、全体会合を20分弱行いまして、それから2時間以上にわたって、1対1で協議をしました。さきほど申し上げたように、昨日盛りだくさんな幅広い議論を2人で行いましたので、それをお互い少人数の幹部を入れて、確認、整理をする、そして今後の進め方を決める、ということを行いまして、今日ある意味、2人きりにならなくてもいい状態だったと思っております。もちろん個別の項目につきましても、それぞれの関心というのは率直に意見交換をさせていただきましたが、まさに協議をこれから始まるということでもありますので、個別の問題について何ら決定をしたということはありませんので、どの分野でどうしたということについてのコメントは、少なくとも今の段階では控えたいと思っております。

(記者)

大臣から何か主張されたという部分は。

(茂木大臣)

もちろん主張しております。

(記者)

それはどのような。

(茂木大臣)

今言ったようにですね、協議中ですから、これから協議が始まるということでありまして、個別の項目というか、大きな方向、これを含めて日米がどういった形で日米の貿易を促進していくか、この方策を探求する、決めたのはそうであります。その中で、様々な課題についてどうするかということは今後決定していくものであります。

(記者)

昨日のぶら下がり会見のときでは、バイラテラルという言葉があったとお話を聞いてましたけれども、今日はFTAという単語は出たのでしょうか。

(茂木大臣)

出ておりません。

(記者)

ライトハイザー通商代表とは、時間を取って2人で会われたのは初めてだと思いますけれども、個人的な信頼関係みたいなものは、今回の協議で培うことは出来たのでしょうか。

(茂木大臣)

そう思っています。非常に率直な意見交換が出来ましたし、ライトハイザー通商代表も非常に率直で、しかも思慮深い人物だなと感じました。お互いに信頼関係に基づいて今後も協議を続けられると確信をいたしております。

(記者)

方策を探求していかれるということですが、それはF T Aでは無く、またT P Pでも無い、何らか新しい姿を想定されるのでしょうか。

(茂木大臣)

方策は方策です。方策を探求していくということであります。

(記者)

さきほど、9月の次回に議論を深めることで一致したとおっしゃってましたけれども、次回の会合で何らかの一定の合意なり成果なりを求めていくということの意味されているのでしょうか。

(茂木大臣)

2回目の会合までに若干の準備も必要かと思っておりますし、さきほど申し上げたように、昨日、相当突っ込んだ議論をして、様々な考え、そして球、お互いに出し合った中で、うまくいけば9月には同じボールでキャッチボールが出来る、こういう風になることを期待しております。

(記者)

確認なんですけれども、昨日、バイラテラルというところと多国間というところで、お互い主張があったということなんですけれども、今日の会合で少し、何らか、立場から歩み寄りというか、一歩先に進んだような議論があったのかどうか。

(茂木大臣)

別に昨日、バイラテラルとマルチで溝が埋まらないという話をしたわけでは無く、昨日は、F T Aという言葉が出たかという話でありましたので、日本のマルチに対して、バイラテラルという言葉を使ったという説明をさせて頂いたというところであります。

今日、特段、2人の間でマルチかバイか、こういう議論をしたわけではありません。

(記者)

9月の会合というのは、9月の国連総会もあって、総理がこちらにいらっしゃる可能性もあると思うんですけれども、それより前に開くことを考えていますでしょうか。

(茂木大臣)

基本はそう想定しています。

(記者)

最終局面は、首脳間で正式な合意を交わすというような形が望ましいというお考えでしょうか。

(茂木大臣)

どうなるか分かりませんが、いずれにしても2回目の会合を受けて、また、おそらく9月には日米首脳会談が行われるであろうということでありまして、ステップを踏んで様々なことを協議していきたいと思っております。

(記者)

今、まだ協議中なのでおっしゃられないことが多いと思いますが、防衛装備品ですとか、LNGの輸入拡大ですとか、そういった日本から提案というものもあったと理解して宜しいでしょうか。

(茂木大臣)

おそらく今後の協議の中で、単に一般的なトレードのルールと言いますか、そういった分野で無いことも含めて議論をする、ということはあるんじゃないかなと思います。

(記者)

ライトハイザー通商代表との協議の範囲について、特定の範囲に限定されているのでしょうか。

(茂木大臣)

分野に限定するよりも通商全体の問題、これを議論したということでありまして。さらに申し上げますと、国際経済全体で言いますと、単に物品に限らず、それは先ほど申し上げたような投資であったり、ルール、強制的な技術移転の問題、そういったものを含めた議論をさせてもらいました。

(記者)

次回の会合の開催地は東京で行う方向なのでしょうか。

(茂木大臣)

全く決まってません。

(記者)

9月にもう1回会談が行われることなのですが、今朝も大臣、早期に成果を出したいとおっしゃっていて、その考えは変わらないのか、9月の2回目を早期ととらえているのか。

(茂木大臣)

こういった大きな問題です。たぶんですね、今日明日で結論ができるということはないので、そういったタイムスパンで早期という言葉を使ってまして、within few daysではないと思っています。

(記者)

Few months だったら。

(茂木大臣)

何をもって成果というかもしれませんが、そういったスパンを含めて早期と思っております。

(記者)

今日の会談の雰囲気、また何対何で会談を行ったのか。

(茂木大臣)

会談の雰囲気はとっても良かったです。少人数でやりました、本当にごくごく限られた人数でやらせてもらったということです。

(記者)

同じボールでキャッチボールというお話があったのですがけれども、一番大きな違いは、マルチでやりたい日本とバイを重視するというアメリカというところだと思えますけれども。

(茂木大臣)

それはちょっとですね、ある意味、一定の前提をおいた質問でありますので、あなたの前提で質問してますので、それには答えにくいと思います。

(記者)

米中の交渉の際に、ムニューシンさんとか、ロスさんとか、ライトハイザーさんとか、重要閣僚が軒並み中国の重要閣僚と交渉をして、一旦、通商紛争、関税は一時停止するというところまで至ったにも関わらず、一転、今に至っているということがあったわけですが、大臣から見てライトハイザーさんの当事者能力、トランプ大統領がこれをひっくり返すということがないのか、ライトハイザーさんの当事者能力はどのようにお考えなのでしょうか。

(茂木大臣)

米中の交渉について、私がコメントする立場にはありませんが、4月のマー・ア・ラゴでの日米首脳会談におきまして、新たな通商協定を日本とアメリカの間で立ち上げる、その担当は、日本側は私が、米側はライトハイザー通商代表が行うと首脳会談で決まったわけでありまして。今回、その首脳会談で決まった閣僚協定を行わせていただきまして、非常にいい雰囲気の中で議論が深まったと思っております。おそらくこの枠組で議論は継続する、協定というのが継続するということになると思います。

(記者)

協定する意義につきまして、違いがあるからこそとおっしゃっていましたがけれども、先ほど同じボールでキャッチボールをするというのは、とらえ方としては、違いをお互いに認識した上で歩み寄れるというようなとらえ方をしてよろしいでしょうか。

(茂木大臣)

それぞれの立場の相違を埋めて、日米の貿易を促進させるための方策を探求する、これを少し違った言葉で言ったのが、同じボールでキャッチボールが出来ればというわけです。

(記者)

初の貿易協定ということで、2日間終わりましたがけれども、ご自身で点数をつけるとすると何点ぐらいでしょうか。

(茂木大臣)

そういうことはやっておりません。

(記者)

昨日はホットな協議にならないようにと、ユーモアを交えておっしゃっていましたが、今日の協議はクールということでしょうか。

(茂木大臣)

ある意味で精力的な協議、確認すべきことはひとつひとつ確認しながら、いい協議ができた。こんな風に思っております。相手側も決して、今回の協議に不満をもっているとは思っておりませんが、どう考えているのかは相手側に聞いて頂ければと思います。

(記者)

昨日の協議と、今日の協議はメンバーも違うと思いますが、2日間の間で大きく違ったこととかは。

(茂木大臣)

先ほども申し上げたのですが、昨日は2人きりで相当突っ込んだ議論をさせてもらった、幅広い分野について、さまざまな考えを出し合った。そこについてはある程度、2人の共通認識というものに、2人だけですと誤解があってもいけませんし、ということでもないのですけれども、きちんと確認しようということで、何人か幹部も入って、議論を整理、そして確認をし、今後の方向についても合意をしたということでもありますので、モードが変わったということよりも、きちんと今回の議論を2日目で整理をしたということだと思います。

(記者)

TPP11の関係国の間では、日米の通商交渉の行方を心配しながら見守っている国もあると思うのですが、なんらかの電話会談等を考えていらっしゃるのでしょうか。

(大臣)

いずれにしてもTPP11につきましては、日本としてもしっかりと取り組んでいく。そして早ければ来年早々にも発効するということは、ライトハイザー通商代表にも明確に申し上げたところであります。TPP11各国の閣僚とは随時、適時連絡を取り合っているのです、これからもそうしていきたいと思っております。

(以上)